**中学校 技術・家庭 家庭分野**

6 教図

家庭006-72

**新 技術・家庭 家庭分野**

**暮らしを創造する**

年間指導計画作成資料

この資料は、令和7年度中学校教科書の内容解説資料として、一般社団法人教科書協会

「教科書発行者行動規範」に則って作成しています。

※教科書の流れや記載内容をできるだけ活用した年間指導計画案を掲載いたしました。

配当時数、学習活動、評価規準などは、変更になる可能性があります。ご了承ください。



1

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １年35時間 | 週（時） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |  | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 |
| 学習題材 | Ａ編１章家族・家庭や地域とのかかわり | Ａ編２章幼児の生活と家族 | Ｂ編１章健康と食生活 | Ｂ編２章何をどれだけ食べたらよいか | B編３章調理と食文化 |
| 学習内容 | 家庭分野のガイダンス | １ 家族の 一 員としてできることを考えようA編1章のガイダンス | 2 家族関係をよりよくする方法を考えよう | 3 高齢者とのかかわりを知ろう | 4 家庭生活と地域のかかわりを知ろう | 1 幼児の体の発達を知ろう A編2章のガイダンス | 2 幼児の心の発達を知ろう | 3 幼児の生活習慣の身につけ方を知ろう  | 4 幼児の生活の特徴を知ろう | 5 幼児の遊びと発達のかかわりを知ろう  | 6 幼児の発達を支えるおとなの役割を考えよう  |  | 7 幼児とふれ合ってみよう  | 1 食事の役割を考えよう「食生活」のガイダンス | 2 健康によい食習慣について考えよう | 1 栄養素の種類と働きを知ろう  | 2 中学生に必要な栄養の特徴を知ろう | 3 食品に含まれる栄養素を調べよう | 4 1日に必要な食品の種類や概量を知ろう | 5 1日分の献立を考えよう  | １ 食品の選択と購入について考えよう | ２ 購入した食品を適切に保存しよう |
| 授業時数 | 1 | 7 | 11 | 4 | 9 | 3 |
| 学習指導要領 | A(1)ア | A(1)ア，(3)ア(ア)，(イ），イ | A(2)ア(ア)，(イ)，イ | B(1) ア( ア)，(イ），イ | B(1) ア( ｲ),（２）ア（ア），（イ），イ | B(3) ア( ア),( イ) |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ２年35時間 | 週（時） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |  | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 |
| 学習題材 | Ｂ編３章調理と食文化 | Ｂ編４章私たちの衣生活 | Ｂ編５章生活を豊かにする製作 | Ｂ編6章私たちの住生活 |
| 学習内容 | ３ 調理の基礎を知ろう | ４ 肉を調理しよう | ５ 魚を調理しよう | ６ 野菜を調理しよう | ７ 地域の食文化を知ろう  | ８ 和食の調理をしてみよう  | １ 衣服の働きを知ろう 「衣生活」のガイダンス | ２ 目的に合わせて自分らしく着よう |  | ３ 自分に合った衣服を手に入れよう | ４ 衣服の手入れをしよう  | ５ 衣服を計画的に活用できるようになろう  | １ 布を使ってつくってみよう  | １ 住まいの働きを知ろう「住生活」のガイダンス | ２ 家族が暮らしやすい住まい方を考えよう | ３ 健康を守る室内環境の整え方を考えよう | ４ 家庭内事故から家族を守ろう | ５ 災害に備えた安全な住まい方を考えよう |
| 授業時数 | 13 | 9 | 5 | 8 |
| 学習指導要領 | B(3) ア( イ),(ウ),(エ)，イ | 　　　B(4) ア( ア)，（イ），イ | B(5) ア，イ | B(6) ア( ア),( イ)，イ |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ３年17.5時間 | 週（時） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |  | 17 | 17.5 |
| 学習題材 | Ｃ編１章私たちの消費生活 | Ｃ編２章消費者の権利と責任 |  | 選 |  | 択 |  |
| 学習内容 | １ 買い物をふり返ってみよう「消費生活・環境」のガイダンス | ２ 契約の意味を考えよう | ３ いろいろな販売方法や支払い方法を知ろう  | ４ 消費者トラブルを防ごう | ５ 消費者を守る仕組みを知ろう | １ 消費者の権利について考えよう  | ２ 消費者の責任について考えよう | ３ 消費生活が社会に与える影響を考えよう | ４ 環境に及ぼす影響を考えて行動しよう |  | 生活の課題と実践 |  |  | 学習のまとめ |
| 授業時数 | 8 | 6 |  | ３ |  |  | 0.5 |  | 指導時数 | A | B | C | 生活の課題と実践そのほかの指導案は、教師用指導書に掲載を予定しています。 | 学習のまとめ | 計 |
| 学習指導要領 | C(1) ア( ア),(イ)，イ | C(2) ア，イ | A(4)ア，B(7)ア， 　　C(3)ア |  |  | 19 | 51 | 14 | 3 | 0.5 | 87.5 |

# 家庭 006-72『新 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する』 年間指導計画例と指導と評価の計画 １年３５時間

##

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 授業時数 | 学習内容 | おもな学習活動 | 評価の観点 | 学習指導要領 |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 態度 |
| 1 | 1 | 家庭分野のガイダンス | ・中学校家庭分野の授業の約束事を確認する。・教科書に記名してあるかを確認し、３年間使用することを理解する。・家庭分野の教科書をめくり、自分が学んでみたいページと理由をノートなどに記入する。・はじめに、教師の自己紹介と、好きな教科書のページと理由を聞く。・名簿順に発表する。聞いている側は好きなページ内容を記入する。・導入を見ながら、家庭分野の３年間の学習に見通しをもつ。・教科書 p.２〜３を見ながら、自分の成長は家族やまわりの人々に支えられてきたことを理解する。・３年間の学習内容と、家族・家庭の基本的な機能とのかかわりに気づく。 | ・自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて理解している。・家族・家庭の基本的な機能について理解している。・家庭や地域の 人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気づいている。 | ・これからの学びに向けて、小学校の学習を思い出している。 | ・これからの家庭分野の学習に向 けて、意欲をもって取り組む姿勢をもっている。 | A(1) ア |
| 2 | 7 | Ａ編１章 家族・家庭や地域とのかかわりのガイダンス１．家族の一員としてできることを考えよう | ・家族・家庭で行われていることを付箋に記入し、代表グループが発表する。・発表内容を似たグループごとにまとめて、整理する。・教科書で、家族・家庭の基本的な働きを確認する。・家族・家庭の基本的な働きについてまとめる。・教科書で、家庭生活と家庭の仕事を読み、家庭の仕事（家事） の種類が７つあり、家庭内だけでなく、企業・行政・地域活動などが補い、支えていることについて理解する。・７つの家庭内で行われている仕事をそれぞれ考え、ワークシートに記入する。・それぞれの 7 つの家庭の仕事（家事） について確認する。・記入された家庭の仕事の中で自分が行っている仕事以外を家族の誰が行っているかを考え、感じたことを発表しあう。 | ・家族・家庭の基本的な機能について理解している。 | ・家族関係をよりよくする方法について問題を見いだして課題を設定している。 | ・家族関係をよりよくする方法について、課題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 | A(1) ア、(3) ア(ア)、( イ）、イ |
| 3 |
| 4 |
| 5 | ２. 家族関係をよりよくする方法を考えよう | ・家族関係のさまざまな立場の人になり、席の隣の人と一緒に演じ、感想をワークシートに記入後、発表する。・家族関係をよりよくする方法にはどのような方法があるか考え、グループで共有後、発表する。・教科書の「言いにくいことを伝えるコツ」を読み、「忙しそうな家族に、学校に提出する書類の記入を急ぎで頼みたいとき」の伝え方を、各自ワークシートに記入する。・家族関係をよりよくする方法を考えるために、ロールプレイングを行い、会話の続きのロールプレイングを発表しあう。・家族それぞれの役割を演じた時の気持ちを発表し、共有する。 | ・家族の互いの立場や役割について理解している。 | ・家族関係をよりよくする方法について考え、工夫している。 | ・家族関係をよりよくする方法について、課題解決 に向けた一連の活動をふり返って改善しようとしている。 |
| 6 | ３．高齢者とのかかわりを知ろう | ・教科書から、年齢人口の割合を理解する。・高齢者の一般的な身体の特徴を考え、話し合ったことを発表する。・発表と教科書を参照し、高齢者の一般的な身体の特徴及び、個人差があることを理解する。・地域や社会で活躍している高齢者を発表する。・高齢者擬似体験をし、感想を記入してみる。・高齢者疑似体験で感じたことから、どのような場合に、どのような介助をしたらよいかを考えて発表する。・自分たちにできそうな高齢者とのかかわり方を考える。 | ・高齢者の一般的な身体の特徴に ついて理解している。 | ・高齢者とのかかわりについて、考察したことを論理的に表現している。 | ・高齢者の立場で考え、適切にかかわろうとしている。 |
| 7 | ４．家庭生活と地域のかかわりを知ろう | ・私たちの住む地域と家庭生活のかかわりには、どのようなものがあるかを個人で考えた後、グループで共有する。・私たちの地域と家庭生活のかかわりについてまとめたグループの発表を行う。・協働という言葉の意味を理解する。・教科書を参考にし、自分のまわりに住んでいる人と家族とどのようにつながっているかを図にして、感想を記入する。・発表を聞き、地域のかかわりについて、自分の考えをまとめる。 | ・高齢者など地域の人々と協働する必要があることを理解している。 | ・高齢者や地域の人々とのかかわりについて問題を見いだして課題を設定している。 | ・高齢者など地域の人々とのかかわりについて課題 解決に主体的に取り組もうとしている。 |
| 8 |
| 9 | 11 | Ａ編２章 幼児の生活と家族のガイダンス１．幼児の体の発達を知ろう | ・教科書の「見つめてみよう」で自分の手と幼児の手の大きさと比較する。・現在の自分と幼児との違いについてわかったことをグループで発表し合う。・幼児の体の発達、運動機能の発達についてノートやワークシートにまとめる。・教科書を見て、中学生と幼児との違いについてわかったことを発表する。 | ・幼児の体の発達の特徴や運動機能の発達について理解している。 | ・幼児とのかかわり方について問題を見いだして課題を設定している。 | ・幼児とのよりよいかかわり方について、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 | A(2) ア(ア)、(イ)、イ |
| 10 | ２．幼児の心の発達を知ろう | ・体の発達とともに心も発達することを、言葉、情緒、社会性、もののとらえ方に分けて理解する。・言葉、情緒、社会性、もののとらえ方の発達についてノートやワークシートにまとめる。・心の発達と周囲からのはたらきかけや周囲の人の接し方を考える。 | ・幼児の言葉や情緒、社会性、も ののとらえ方の発達の特徴について理解している。 | ・幼児とのかかわり方について問題を見いだして課題を設定している。 | ・幼児とのよりよいかかわり方について、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 |
| 11 | ３．幼児の生活習慣の身につけ方を知ろう | ・教科書や写真・映像を見て、生活習慣について理解する。・幼児の生活の場面について写真や絵を見て、どのように接するとよいか考える。（幼児が「自分でやりたい」という気持ちになる工夫を考える。）・考えた接し方をもとに、ロールプレイングをする。 | ・幼児が生活習慣を身に付けるに は、周囲のおとなの支えが必要であることを理解している。 | ・幼児とのかかわり方について考え、工夫している。 | ・幼児とのよりよいかかわり方について、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 |
| 12 | ４．幼児の生活の特徴を知ろう | ・幼児の睡眠時間や食事の回数などが、中学生とは違うことに気づく。・教科書や、そのほかの幼児の写真から気づいたことをあげる。・幼児の生活時間をグラフ等にして意見を出し合う。 | ・幼児の1日の生活の特徴について理解している。 | ・幼児とのかかわり方について、次戦を評価・改善するなど、課題解決に向けた活動について論理的に表現している。 | ・よりよい生活の実現に向けて、幼児とのかかわり方について課題解決に向けた活動をふり返り、改善しようとしている。 |
| 13 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 14 |  | ５．幼児の遊びと発達のかかわりを知ろう | ・心身の発達を促す遊びの例をグループで考え、発表する。・幼児の遊びの意義についてまとめ、幼児が安心して、十分に遊ぶことができる環境について考える。・情報機器での遊びについてどんなものがあるかについてグループで話し合い、長所と短所を挙げる。・幼児のさまざまな遊びの種類について理解する。・幼児の心身の発達には、どのような遊びがよいかを考え、発表する。・幼児とのふれあい実習でどのような遊びをしたらよいかグループで話し合う。 | ・幼児にとっての遊びの意義について分かり、幼児の心身の発達と遊びには深いかかわりがあることを理解している。 | ・幼児とのかかわり方について問題を見いだして課題を設定している。 | ・幼児とのよりよいかかわり方について、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 | A(2) ア(ア)、(イ)、イ |
| 15 |
| 16 | ６．幼児の発達を支えるおとなの役割を考えよう | ・幼児の成長を支える家族や地域の役割を考える。・子どもの成長を支える施設や法律、児童虐待の状況等について理解する。・モデル家族の課題を見つけ、子どもの生活や家族関係をよりよくする方法を考える。 | ・幼児が育つ環境としての家族・地域の役割について理解している。 | ・幼児とのかかわり方について考え、工夫している。・幼児とのかかわり方についての課題解決に向けて、考察し論理的に表現している。 | ・よりよい生活の実現に向けて、家族や地域の人々と協働し、幼児とのかかわり方について工夫し創造し、実践しようとしている。 |
| 17 | ７．幼児とふれ合ってみよう | ・幼児との接し方について、確認し、かかわり方や学習課題を確認する。・幼児の観察、ふれ合い体験を行う。・担当クラスに分かれ、自分たちの計画に沿って体験活動を行う。・お礼の言葉、感想を発表しあいさつをする。・ふれ合い体験の記録をする。 | ・幼児とのかかわり方の注意点などについて理解している。 | ・幼児とのかかわり方について問題を見いだして課題を設定している。 | ・よりよい生活の実現に向けて、幼児とのかかわり方について、工夫し創造し、実践しようとしている。 |
| 18 |
| 19 |
| 20 | 4 | Ｂ編「食生活」のガイダンスＢ編１章 健康と食生活１．食事の役割を考えよう | ・教科書を見て、食べることにどのような意味があるか、意見を出し合う。・教科書を読み、食事の役割を理解する。 | ・生活の中で食事が果たす役割に ついて理解している。 | ・食べることの意味について、食事の役割それぞれを踏まえて考え、表現することができている。 | ・食事の役割を、自らの食生活の改善の観点で考え、主体的に取り組もうとしている。 | B(1) ア(ア)、( イ）、イ |
| 21 |
| 22 | ２．健康によい食習慣について考えよう | ・自分の食習慣をふり返る。（教科書を参考に、よくない食習慣のおもな例とその影響を考える。）・朝ごはんの重要性を理解し、自分で準備できるようにする。・なぜ朝ごはんは大切なのか、理由を考えて自分で用意できるよう、簡単なメニューを考える。・グループで食習慣すごろくづくりをして発表する。 | ・健康によい食習慣について理解している。 | ・健康によい食習慣について、問題を見いだし、課題を設定し、考えて工夫している。 | ・よりよい生活の実現に向けて、健康によい食習慣の課題解決に主体的に取り組もうとしている。 |
| 23 |
| 24 | 9 | Ｂ編２章 何をどれだけ食べたらよいか１．栄養素の種類と働きを知ろう | ・教科書で、栄養素の種類と特徴について読み、小学校での学びを思い出しつつ、栄養素の種類と働きについて理解する。・五大栄養素のおもな役割を整理する。・水は栄養素ではないが、大切な働きをすることを知る。 | ・栄養素の種類と働きについて理解している。・水の働きについて理解している。 | ・栄養素の働きについて、小学校の学習を思い出してまとめることができている。 | ・五大栄養素の働きについて、自分ごととしてとらえ、主体的に取り組もうとしている。 | B(1)ア(ｲ )、（２） ア（ア）、（イ）、イ |
| 25 | ２．中学生に必要な栄養の特徴を知ろう | ・中学生に必要な栄養素について考え、どのような栄養素が必要か自分で考える。・教科書の表の該当年齢に線を引き、自分にとって必要な栄養素を確認してワークシート、ノートなどにまとめる。・自分にとって必要な栄養素が摂れる食事を考える。・本時で学習したことを活かし、自分にとって必要な栄養素が摂れる食事を考え、絵と文章で表現する。 | ・中学生に必要な栄養の特徴について理解している。 | ・自分の年齢・性別から必要な栄養素について調べ、それらの栄養素が摂れる食事について考え、表現できている。 | ・自分の成長に必要な栄養素につ いて考え、自らの食生活改善に生かす意欲をもっている。 |
| 26 | ３．食品に含まれる栄養素を調べよう | ・それぞれの食品に含まれる栄養素の種類や量は、食品成分表で調べることができることを理解する。・６つの基礎食品群について理解する。・食品群別摂取量のめやすについて理解する。・廃棄率の求め方を理解し、実際に計算する。・教科書を使って食品成分表の使い方を習得し、身近な食品の成分を食品成分表で調べる。 | ・食品に含まれる栄養素について理解している。・食品群別摂取量のめやすや、食品に含まれる栄養素の種類や量の調べ方（食品成分表） を理解している。 | ・食品に含まれる栄養素の種類や量について、食生活に照らし合わせて調べ、まとめることができている。 | ・自らの食生活をよりよくするために、食品成分表を使って食品の栄養素の量について調べようとする意欲をもっている。 |
| 27 | ４．１日に必要な食品の種類や概量を知ろう |
| 28 |
| 29 | ５．１日分の献立を考えよう | ・教科書を見て、料理の組み合わせや使われている食材を調べる。・献立作成の手順を理解する。・教科書をベースに、栄養のバランスのよい、中学生の１日分の献立を考えてみる。 | ・1日分の献立作成の方法について理解している。 | ・中学生の 1 日分の献立について問題を見いだして課題を設定し、考え、工夫している。 | ・よりよい生活の実現に向けて、中学生の1日分の献立について、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 |
| 30 |
| 31 |
| 32 |
| 33 | 3 | Ｂ編３章 調理と食文化１．食品の選択と購入について考えよう | ・生鮮食品の鮮度の見分け方を理解する。・教科書を見ながら、食品の選び方について確認する。・旬（出盛り期）について理解し、生鮮食品の旬のメリットを考える。 | ・目的や用途に応じた食品の選択について理解している。 | ・日常の１食分における食品の選択について問題を見いだして課題を設定している。 | ・よりよい生活の実現に向けて、日常の１食分における食品の選択について、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 | B(3) ア( ア)、( イ) |
| 34 |
| 35 | ２．購入した食品を適切に保存しよう | ・食品の保存について理解する。・生鮮食品や加工食品をどこに保存するとよいか、考える。・食中毒の予防について理解し、微生物や細菌が増える条件を知って増殖させない方法を考える。・食中毒を防ぐ３つの原則を実行するために、家庭内でできることをグループで話し合う。 | ・食品の保存方法と保存期間の関係、食品の腐敗や食中毒の原因について理解している。 | ・食品の適切な保存について考え、工夫している。・食品の保存法について、他教科の内容と結びつけて考えることができている。 | ・食品の保存方法や食中毒の予防について、実生活の改善を含めて主体的に取り組もうとしている。 |

4 5

# 家庭 006-72『新 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する』 年間指導計画例と指導と評価の計画 ２年３５時間

##

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 授業時数 | 学習内容 | おもな学習活動 | 評価の観点 | 学習指導要領 |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 態度 |
| 1 | 13 | Ｂ編３章 調理と食文化３．調理の基礎を知ろう | ・教科書を見ながら、調理の手順を確認する。・教科書を見ながら、包丁の部位や安全な扱い方を確認し、食材のいろいろな切り方を理解する。また、計量・火加減の調整についても確認する。・教科書を見ながら、調理における食中毒の予防について理解する。・加熱調理の種類と方法について理解する。・盛りつけ・配膳の基礎、食事のおもなマナーについて確認する。・後かたづけで気をつけることを確認する。 | ・調理道具の正しい使い方について理解しているとともに、適切に扱うことができる。 | ・小学校の学習と関連付けて考え、基礎技能と実際の場面を結びつけて考えることができている。 | ・調理における安全・衛生の大切さに気づき、実習や実生活においても生かそうとする意欲がある。 | B(3) ア(イ)、(ウ)、(エ)、イ |
| 2 |
| 3 | ４．肉を調理しよう | ・３種類の肉の、生と加熱後の状態を比べ、気が付いたことを発表する。また、肉の種類と部位及び加熱によるたんぱく質の変性について理解する。・衛生的な取り扱いについて、教科書を参考に理解を深める。・分担して調理を行う。（グループ調理）①計量・下準備②加熱調理③つけあわせの調理・仕上げ・椅子を準備し、試食・教科書の「ふり返る」の項目を確認しながら試食・分担してかたづけ・使用した調理器具の返却、コンロと流しの清掃、ゴミの処理、刃物の返却、ガスの元栓確認、床の清掃 | ・肉の種類や特徴を理解し、調理上の特徴がわかる。・肉の基本的な加熱調理の仕方を理解しているとともに、適切に行うことができる。 | ・肉の加熱調理について実践を評価したり、改善したりしており、問題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。 | ・よりよい生活の実現に向けて、日常食の調理について課題解決に主体的に取り組もうとしている。・日常食の調理について課題解決に向けた一連の活 動をふり返って改善しようとしている。 |
| 4 |
| 5 |
| 6 | ５．魚を調理しよう | ・教科書を読み、魚の加熱によるたんぱく質の変性について理解する。・魚の衛生的な取り扱いについて、理解を深める。・分担して調理を行う。（グループ調理）①計量・下準備②加熱調理③つけあわせの調理・仕上げ・椅子を準備し、試食・教科書の「ふり返る」の項目を確認しながら試食・分担してかたづけ・使用した調理器具の返却、コンロと流しの清掃、ゴミの処理、刃物の返却、ガスの元栓確認、床の清掃 | ・魚の種類や特徴を理解し、調理上の特徴がわかる。・魚の基本的な加熱調理の仕方を理解しているとともに、適切に行うことができる。 | ・魚の加熱調理について実践を評価したり、改善したりしており、問題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。 | ・よりよい生活の実現に向けて、日常食の調理について課題解決に主体的に取り組もうとしている。・日常食の調理について課題解決に向けた一連の活 動をふり返って改善しようとしている。 |
| 7 |
| 8 |
| 9 | ６．野菜を調理しよう | ・生野菜と加熱した野菜の違いを理解する。・簡単な実験を行い、教科書で確認した内容についての理解を深める。・分担して調理を行う。（グループ調理）①計量・下準備②加熱調理③つけあわせの調理・仕上げ・椅子を準備し、試食・教科書の「ふり返る」の項目を確認しながら試食・分担してかたづけ・使用した調理器具の返却、コンロと流しの清掃、ゴミの処理、刃物の返却、ガスの元栓確認、床の清掃 | ・野菜の種類や特徴を理解し、調理上の特徴がわか る。・野菜の基本的な加熱調理の仕方を理解しているとともに、適切に行うことができる。 | ・野菜の加熱調理について実践を評価したり、改善したりしており、問題解決に向けた一連の活動につい て、考察したことを論理的に表現している。 | ・よりよい生活の実現に向けて、日常食の調理について課題解決に主体的に取り組もうとしている。・日常食の調理について課題解決に向けた一連の活 動をふり返って改善しようとしている。 |
| 10 |
| 11 |
| 12 | ７．地域の食文化を知ろう | ・全国各地のおもな郷土料理について知る。・各地の郷土料理について興味・関心をもち、自分の都道府県の郷土料理について、さらに調べてみる。・自分が住む地域の食材について調べてグループごとに発表する。・地域の食材のマークについて調べる。 | ・地域、または季節の食材について理解している。 | ・地域の食材や郷土料理について 調べ、まとめて発表することができる。 | ・よりよい生活の実現に向けて、地域の食文化について課題解決に主体的に取り組もうとしている。 |
| 13 | ８．和食の調理をしてみよう | ・教科書を見ながら、和食の特徴をまとめる。・だしについて理解し、家庭でどのようなだしを使っているか、知っているものをあげる。・こんぶとだしの混合だしのとり方を、教科書や二次元コードの動画を見ながら理解する。・時間があるときは、だしを使った汁物や煮物を調理する。 | ・地域の食材を用いた和食の調理について理解しているとともに、だしと地域または季節の食材を用いた煮物または汁物の調理が適切にできる。 | ・家庭でのだしの使用について、発表することができる。・教科書の「地域の味」レポートで情報をまとめて発表することができる。 | ・よりよい生活の実現に向けて、地域の食文化について工夫し創造し、実践しようとしている。 |
| 14 | ９ | Ｂ編「衣生活」のガイダンス１．衣服の働きを知ろう | ・制服と体操着（T シャツ） の着心地を比べて、衣服の働きを理解する。・クラスで着心地や「いつ着るのか」などの違いを共有し、まとめる。・教科書で、衣服の働きや衣服の基本的な働きを確認する。 | ・衣服と社会生活とのかかわりが分かり、衣服の基本的な働きについて理解している。 | ・衣服の選択について問題を見出して課題を設定している。 | ・衣服の選択について、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 | B(4) ア( ア)、（イ）、イ |
| 15 | ２．目的に合わせて自分らしく着よう | ・T.P.O. にふさわしい服装を考える。・T シャツはカジュアルウェアであり、ワイシャツは着方などでフォーマルウェアにもカジュアルウェアにもなることを確認する。・衣服のコーディネートとその要素について理解する。・活動場面に応じた服装を考え、配慮・工夫したか発表して他の人と比較してみる。・和服の基礎的な知識を身につける。・男女のゆかたの違いをあげ、形や部分名称について知る。・自分でゆかたを着てみる。 | ・衣服と社会生活のかかわり、目的に応じた着用、個性を生かす着用、衣服の適切な選択について理解している。 | ・さまざまな場面での衣服を想像し、働きと結びつけて考えることができている。 | ・毎日の衣服について、衣服の働きを意識し、改善しようとしている。 |
| 16 |
| １７ | ３．自分に合った衣服を手に入れよう | ・衣服の選択と購入のプロセスを理解する。・教科書を見て、衣服の購入の必要性を確認する。・衣服購入のために必要な情報や検討事項を確認する。・衣服を購入し、着用・評価するまでの流れを確認する。・既製服には、どのような情報が表示されているか知り、取扱い表示の例と、その意味を理解する。・既製服のサイズについて理解し、採寸の方法を理解する。 | ・衣服を適切に選択するためのポイント、衣服の表 示の読み取り方について理解している。 | ・衣服の選択について考え、工夫 し、実践を評価したり、改善したりしている。 | ・衣服の選択について、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 |
| １８ |

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 19 |  | ４．衣服の手入れをしよう | ・衣服の適切な手入れをするためには、洗濯するにあたって知っておくべき点があることを知る。・教科書を参照して、綿 100％の白い布に、蛍光ペンでしみをつけ、代表者がしみ抜きの実験をする。・洗剤の働きを理解し、洗剤の主成分である界面活性剤の働きについて理解する。・小学校での衣服の学習を再確認する。・教科書を見ながら、洗濯機による洗濯の流れを確認する。・粉末洗剤、液体洗剤の違いなどを知る。 | ・洗濯方法、洗剤の特徴について理解しているとともに、適切に手入れができる。 | ・衣服の材料や状態に合わせた日常着の洗濯について問題を見いだして課題を設定し、考え、工夫している。 | ・衣服の手入れについて、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 | B(4) ア( ア)、（イ）、イ |
| 20 | ・クリーニング店の利用について理解し、衣服によっては専門業者に依頼する必要があることを確認する。・アイロンかけ、収納の方法について理解する。・シャツのたたみ方のポイントを確認する。 | ・衣服の収納や保管の方法について理解しているとともに、適切にできる。 | ・衣服の材料や状態に合わせた日常着の洗濯について考え、工夫し、実践を評価したり、改善したりしている。 | ・衣服の手入れについて、課題解決に向けた一連の活動をふり返って改善しようとしている。 |
| 21 | ・教科書を参考に、まつり縫い、スナップつけ、補修の基礎（糸通し、玉結び、玉どめ、並縫い、ボタンつけなど）などを確認する。 | ・衣服の材料や状態に応じた日常着の補修の仕方について理解しているとともに、適切に補修ができる。（まつり縫い、スナップつけ、ボタンつけなど） | ・衣服の材料や状態に合わせた日常着の洗濯について、実践を評価したり、改善したりしている。 | ・衣服の手入れについて、課題解決に向けた一連の活動をふり返って改善しようとしている。 |
| 22 | ５．衣服を計画的に活用できるようになろう | ・入手から処分までの衣服計画の流れを確認する。・処分した衣服がどのような道筋を通るのかを理解し、持続可能な社会のために、自分にできることを考える。・資源や環境に配慮した衣生活を送るために、自分にできることを考え、発表する。 | ・衣服の計画的な活用の必要性について理解している。 | ・衣服の選択について問題を見出して課題を設定している。 | ・衣服の選択ついて、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 |
| 23 | 5 | Ｂ編５章 生活を豊かにする製作１．布を使ってつくってみよう | ・製作するものを決める（自分や家族、地域の人々の生活を豊かにするものを考える）・製作の計画を立てる（教科書を見ながら製作の見通しをもち、目的に合った材料や道具、手順などを考える。）・布を使った実習の基礎的な知識・技能も適宜確認する。・裁縫用具やミシンの使い方、被服室のルールなどを確認する。・防災袋、エプロン、おじゃみクッションなどの計画を立て、行程表をつくる。・製作を行う。・ポケットの形やつけ方、丈の長さや大きさなど、自分なりの工夫を盛り込む。・時間があれば、作品の発表会を行う。 | ・製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取り扱いについて理解しているとともに、手縫いやミシン縫いによる製作が適切にできる。 | ・生活を豊かにするための布を用いた製作について問題を見いだして課題を設定し、考え、工夫している。・生活を豊かにするための布を用いた製作についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。 | ・生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題解決に主体的に取り組もうとしている。・生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題解決に向けた一連の活動をふり返って改善しようとしており、工夫し創造し、実践しようとしている。 | B(5) ア、イ |
| 24 |
| 25 |
| 26 |
| 27 |
| 28 | 8 | Ｂ編「住生活」のガイダンスＢ編６章 私たちの住生活１．住まいの働きを知ろう | ・住まいの基本的な働きを理解する。・教科書を参考に、生活行為と住まいの空間について理解する。・自分の住まいの空間では、どのような生活行為をしているかを思い浮かべて具体例をあげる。・日本の伝統的な住まいの写真などを見ながら、伝統的な住まいのよいところをあげる。また、現代の住まいのよいところもあげる。・住まい方の変化や、和式と洋式の住まいの違いについて整理する。 | ・住まいの基本的な機能について理解している。・自分や家族の生活行為と住空間とのかかわりを理解している。 | ・住まいの空間を自分の生活と結びつけて考えることができている。 | ・住空間の働きについて考え、家庭での生活改善に向けた意欲をもっている。 | B(6) ア(ア)、(イ)、イ |
| 29 |
| 30 | ２．家族が暮らしやすい住まい方を考えよう | ・住まいの空間は、家族の住まい方によって変わってくることを確認する。・同じ家族であっても、年月とともに生活の仕方などが変化すること、それに合わせて住まい方を工夫していくことの重要性に気づく。・教科書のモデル家族を見ながら、住まいの空間の使い方をグループで考え、グループごとに話し合って発表する。・間取り図を見て、その住まいでの暮らしを想像する。 | ・住生活に対する家族の思いや願いを互いに尊重しながら調整して住空間を整える必要があることを理解している。 | ・安全な住まい方について問題を見いだして課題を設定し、住空間の整え方について考え、工夫することができる。 | ・家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 |
| 31 | ３．健康を守る室内環境の整え方を考えよう | ・住まいの中の空気の汚れについて、発生源や対策を理解する。・教科書を参考に、結露やダニ、かびの害を理解し、結露の防止やダニ、かびの対策の仕方について考える。 | ・住居内で安全に生活できるよう住空間を整える必要があることを理解している。 | ・安全な住まい方について問題を見いだして課題を設定し、住空間の 整え方について考え、工夫することができる。 | ・家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 |
| 32 | ４．家庭内事故から家族を守ろう | ・家庭内事故の対策を考える。・住まいに施された安全対策について知る。・教科書をもとに、みんなにやさしいユニバーサルデザインの住まいについて考える。・住まいの安全対策について、身のまわりで知っている例を挙げる。 | ・家庭内事故の要因と対策について理解している。 | ・安全な住まい方について問題を見いだして課題を設定し、住空間の整え方について考え、工夫し、実 践を評価したり、改善したりしている。 | ・家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題解決に主体的に取り組もうとしており、課題解決に向けた一連の活動をふり返って改善しようとしている。 |
| 33 |
| 34 | ５．災害に備えた安全な住まい方を考えよう | ・大地震の場合について、住まいの被害を理解する。・時間があれば、学校で災害が起きた場合の危険な場所を点検し、対策を考える。・自然災害への備えをグループで考える。・災害についてグループで調べたこと、考えたことを発表し、「防災○か条」を模造する。 | ・自然災害に備えた安全な住空間の整え方について理解している。 | ・安全な住まい方についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。 | ・家族の安全を考えた住空間の整え方について工夫し創造し、実践しようとしている。 |
| 35 |

6

# 家庭 006-72『新 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する』 年間指導計画例と指導と評価の計画 ３年１７.５時間

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 授業時数 | 学習内容 | おもな学習活動 | 評価の観点 | 学習指導要領 |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 態度 |
| 1 | 8 | Ｃ編「消費生活・環境」のガイダンスＣ編１章 私たちの消費生活１．買い物をふり返ってみよう | ・最近購入したものを付箋に書き、「物資」と「サービス」に分ける。・生活の中で消費する物資、サービスには、「必需的なもの」と「選択的なもの」があることを理解する。・物資、サービスの購入について、自分、家族、社会それぞれの立場で考える。・商品を選ぶとき何を重視するか、順位付けしてグループで意見交換する。・教科書を参考に、消費行動の意思決定のプロセスを理解する。・「欲しいもの」から１つを選び、買い物の消費行動のプロセスについて考える。 | ・物資・サービスの選択に必要な情報の収集について理解しているとともに、適切にできる。 | ・物資・サービスを購入する際の優先順位や、計画的な金銭の管理について考え、工夫している。 | ・自分の消費行動をふり返り、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 | C(1) ア( ア)、(イ)、イ |
| 2 |
| 3 | ２．契約の意味を考えよう | ・契約は、事業者（店） と消費者（客） がお互いに合意することによって成立し、事業者も、消費者も権利と義務が発生することを理解する。事業者 代金を受け取る権利 ／ 商品を引き渡す義務消費者 商品を受け取る権利 ／ 代金を支払う義務・未成年者取消権について知り、行使できる場合、できない場合をまとめる。また、未成年者取消権がある意味を考える。 | ・売買契約の仕組みや、契約によって発生する権利と義務について理解している。 | ・売買契約の仕組みについて問題を見いだし課題を設定している。 | ・中学生も契約にかかわっていることに気付き、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 |
| 4 | ３．いろいろな販売方法や支払い方法を知ろう | ・店舗販売と無店舗販売について理解し、自分や家族が購入したものを、店舗販売と無店舗販売に分ける。また、それぞれの特徴（長所と短所）を考える。・支払いの種類と方法、特徴、長所と短所を話し合う。・教科書を参考に、キャッシュレス決済の活用についてグループで考え、まとめる。・教科書を参考に、クレジットカード (後払い）の仕組みを調べ、長所、短所を話し合う。また、クレジットカードは、三者間契約であることを理解する。・物資やサービスの購入とその支払いの方法について、自分の生活でどのようなことを考えたらよいかをまとめる。 | ・さまざまな販売方法や支払い方法について、その特徴やメリット・デメリットについて理解している。・クレジットカードの三者間契約について理解している。 | ・自分や家族の買い物の場面を思い出し、どのような販売方法や支払い方法だったかまとめられている。・キャッシュレス決済の多様化について、注意点とともに考えることができている。 | ・中学生も契約にかかわることに気付き、課題解決に主体的に取り組もうとしている。・これからのキャッシュレス社会を見据え、自分や家族の生活と結びつけて主体的に取り組もうとしている。 |
| 5 |
| 6 | ４．消費者トラブルを防ごう | ・消費者トラブルについて知り、起こる理由を考える。・消費者と事業者の間の情報量や交渉力の格差を埋めるためには、どうしたらよいか考える。・情報を理解しないことが、消費者トラブルが起こる一因となることに気づき、家庭にあるいろいろな商品の表示や説明書などを調べてみる。・「悪質商法などの例」や「消費者トラブルの例」を調べて発表する。 | ・物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 | ・物資・サービスの選択に必要な情報を活用した購入について考え、工夫している。 | ・身近に多くの消費者トラブルがあることに気付き、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 |
| 7 | ５．消費者を守る仕組みを知ろう | ・消費者を守る法律があることを理解する。・「消費者契約法」「特定商取引法」「製造物責任法」「消費者基本法」などの意味を調べてまとめる。・クーリング・オフ制度を理解する。・消費者トラブルについて相談できる機関があることを理解し、地域の消費生活センターについて調べてみる。・教科書を参考に、消費者トラブルの解決への流れをグループでシミュレーションし、消費者トラブルの解決のための行動の意味を考えてみる。 | ・消費者を守る法律や制度について理解している。 | ・消費者トラブルの対処について問題を見いだして課題を設定し、考え、工夫している。 | ・よりよい生活の実現に向けて、消費者トラブルを解決するための行動について考え、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 |
| 8 |
| 9 | 6 | Ｃ編２章 消費者の権利と責任１．消費者の権利について考えよう | ・消費者の権利とは何か、学習する。・消費者の権利についてまとめ、理解する。・消費者の権利は、消費者基本法によって定められていることを知る。・教科書p.248の「考えてみよう」について取り組み、どんな権利が侵害されているか、グループで話し合う。 | ・消費者の権利について理解している。 | ・自立した消費者としての責任ある消費行動について問題を見いだして課題を設定している。 | ・消費者の権利について、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 | C(2)ア、イ |
| 10 | ２．消費者の責任について考えよう | ・消費者の責任とは何か、学習する。・買った商品により被害を受けたらどこに相談するか考える。・商品による被害を受けた時、だれにも相談しない、または伝えなかった人の割合が約半数いることを知り、どうすれば改善されるか考えてみる。・消費者が主張し行動する大切さを考える。・消費者の責任の順位を考えて、その理由を述べる。 | ・消費者の責任について理解している。 | ・消費者の責任について、自分の消費活動を結びつけて考えることができている。 | ・消費者の責任について課題解決に主体的に取り組もうとしている。 |
| 11 | ３．消費生活が社会に与える影響を考えよう | ・教科書を参考に、エシカル消費の例について生産の背景と購入した場合のメリット・デメリットを考え、グループで共有する。・社会的消費、エシカル消費について理解する。・買い物はお金の投票であり、エシカル消費、本物を購入することなど、社会的な視点をもつことを理解する。・教科書を読み、消費者市民、消費者市民社会について理解し、まとめる。 | ・買い物の社会的な意味や、自分たちの消費行動が社会に及ぼす影響について理解している。 | ・これからの生活を展望し、環境に配慮した消費行動についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。 | ・自分たちの消費行動が社会に及ぼす影響を考え、自らの消費生活を社会に配慮して変えていこうとする意欲がある。 |
| 12 |
| 13 | ４．環境に及ぼす影響を考えて行動しよう | ・４つのグループに分かれ、以下の４つの課題解決に対しての調べ学習を行う。A. プラスチックごみ ／ B. 食品ロスC. 循環型社会（3R） ／ D. 水資源・環境に配慮した生活を送るために、自分や家族にできることは何か、考える。・「環境に配慮した行動」を送るために自分たちができること・気をつけることを話し合い、話し合ったことを標語にしてグループごとに壁新聞づくりを行う。 | ・私たちの消費生活が環境に与える影響について理解している。 | ・持続可能な社会の実現に向けて、消費行動についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。 | ・よりよい生活の実現に向けて、自立した消費者としての消費行動に ついて工夫し創造し、実践しようとしている。 |
| 14 |
| 15 | 3 | 【選択】生活の課題と実践 | ・生活をよりよくするための、生活課題と実践にチャレンジする。・実践した結果を評価・改善するとともに、新たな課題を見つけ、次の実践に取り組もうとする。 | ・生活の課題と実践の流れと、意義について理解している。 | ・自分や家族の生活、または地域の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、課題解決に向けて、計画を工夫している。 | ・自分や家族の生活、または地域の生活に関する課題解決に主体的に取り組もうとしている。 | A(4) ア、B(7) ア、C(3) ア |
| 16 |
| 17 |
| 17.5 | 0.5 |  | 学習のまとめ |  |  |  |  |

24.04

8